

# ひびき

教育目標：「なかよく かしこく たくましく」

～ 夢と自信と思いやり ～

多治見市立共栄小学校 R2. 6. 1

## 【学びを喜び、学びを守る】

校長 宮地敏彦

長い休校期間が終わり、ようやく児童達が登校できるようになりました。午前みの分散登校日（5/25～28）、午前と午後の分散登校（6/1～5）を経て、6月8日（月）から通常の全校登校となります。再スタートの初日は、久しぶりに友達と会えて皆嬉しそうでした。マスクをしていますが、担任の先生の問いかけに元気よく『はい！』と返事する声が学校に活気をよみがえらせていました。1年生の児童にとっては、今からが小学生としての学びのスタートです。



＜1年生の学習風景＞

休校期間中も課題プリントやインターネットを活用して、ご家族の支援と励ましの中で学習を進めていましたが、「やっぱり学校がいい。」「みんなと授業する方が楽しい。」ということ強く感じたようです。たしかに勉強は一人でもできます。しかし、仲間や先生とする勉強は「学び合い」であり、互いの意見を聞き合いながら、考えを練り上げたり、発見したりすることができます。そしてその過程で喜びや感動を味わうことで“学び”が思い出になり、記憶されていきます。学校は“学び”を喜びとする場所であり、子どもたちの“学び”を守るという使命を担っています。今回コロナによって子どもたちの“学び”が脅かされていることで、それを痛感しています。また、“学び”の遅れを解消するために、教科の知識や技能を身に付けさせることを優先して考えなければいけません。学校生活が楽しくなるように、子どもにとって最良なことを子どもたちの声をよく聞いて考えていきたいと思えます。

## 【夢は学びを支える力 ～ソロモン諸島体験記②～】

途上国の教育を想像する時、「遅れている」「学力が低い」ことを多くの方はイメージするかもしれません。確かに学校や教員の数が少なく、中学校に入学するにも全国统一試験をパスしなければいけませんし、パスする力があっても一年間の給食費が払えなくて入学できない子もいます。学びの方法や材料も日本のように多くはありません。教科書は学校から借りるものなので書き込みなどもできません。だからこそ、児童生徒は授業をよく聴き、一生懸命勉強します。学力や思考力は日本の同世代の子とほとんど変わりません。むしろ、英語力は高いです。なぜなら、小学校まではそれぞれ実家の



＜夜の教室で自習する生徒達＞

ある村の小学校で異なる言語（村の言葉）で授業を受けますが、中学校に進学すると、校則で校内では英語しか認められないからです。多くの途上国は、自国が発展するためには他の国々との交流（教育・経済）が不可欠であり、そのためには国として、英語を使えるようにすることが教育の重点となっています。実際、ソロモンには総合大学がなく、多くの子がオーストラリアやフィジー等、補助を受けて近隣の国に留学します。中学生達に将来の夢をたずねると、「医者になる。」「弁護士になる。」等、具体的な職業を答える子が多く、「家族のために収入を得たい。」と言う子もいます。自分のもっている夢が真剣な“学び”を支えているのですね。

“学び”のスタイルは、私が勤務していた中高等学校では7時15分の朝会に始まり40分×8校時の授業を受け、昼食後90分の自習、夕食後も教室で90分の自習に取り組みます。自習時間に教員は学校にはいませんが、夜の静けさの中でペンの音だけ響きます。一方、小学校の授業時間は日本より短く、教室の少ない学校では、午前と午後に分けて児童が交代で登校します。中にはアメリカ軍の旧兵舎を校舎にした薄暗い教室もありましたが、学ぶまなざしの輝きはどの年代の子も変わりません。

今年度、学校教育目標のサブテーマは「夢と自信と思いやり」です。子どもたちが自分なりの夢に向かって頑張る中で自信をつけ、その自信が他者への思いやりとしてあらわれることを願っています。